

オーダーメイド麺などの 製造工程を改善して生産性を向上

課題

非効率の手作業を見直したい

大正6年に精米業として開業し、大正12年からは製麺業、その後昭和47年から燃料販売業も行っている有限会社カネミヤ。主力製品の乾麺は、添加物を一切加えない昔ながらの自然乾燥方式製造で、乾燥麺の卸売りのほか、別の製麺所への業販も行っている。

近年は小ロットのOEM商品やオーダーメイド麺の受注が増えており、地域の特産物を練り込んだ麺やイベント用・贈答用のオーダーメイド麺も製造している。

しかし、これらの商品は、開発や試作に時間と手間がかかるうえ、ロットも小さいことから、生産性の向上が大きな課題だった。また、同社の所有する裁断機が古く、長さ調整も裁断作業も手作業だったため、正確に指定の長さに裁断できないことがクレームやロスになっていた。

そこで同社は、以前からつきあいのある加治川商工会に、事業計画や設備投資などについて相談。生産体制の見直しと、設備導入について検討することになった。

商工会があらためて見直してみると、設備は古く、手作業や一工程一機械で効率が悪かった。そこで、小規模事業者持続化補助金を活用して新設備を導入。作業効率と生産性の向上を図ることになった。麺の裁断については、ものづくり補助金を活用して、自動裁断機を導入することにし、商工会が申請書の作成支援を行った。

さらに、製品のPRや販路開拓も積極的に行うため、展示会などへの出展も商工会が支援することになった。

支援

補助金や展示会出展で 売り上げ増加

持続化補助金の活用では、自動ふるい機を導入。これにより、従業員2名が約2日かけて行っていた作業が約半日で終了できるからだ。また、包装用ビニールへの賞味期限の印字作業と製品を封入した包装の封止作業（シーリング作業）がそれぞれ別の機械で非効率的だったことから、印字とシーリングが同時に可能なサーマルプリンタ搭載のシーリング機も導入。この導入資金については、もっとも有利な方法を商工会が調べてリース契約を提案した。こうした設備投資で、月当たり72時間程度の労働時間の削減を実現、その分をほ



導入したサーマルプリンタ搭載のシーリング機

かの工程に振り分けることで生産性が向上した。

新たな需要を開拓するために出展した本州日本海側最大の食の総合見本市「フードメッセ in にいがた 2017」では、OEM商品、オーダーメイド麺の認知度が向上し、来場したバイヤーからの商談依頼も複数もあった。

今後は、導入予定の自動裁断機により、手作業での裁断ロス半減、労働時間3分の2短縮を見込んでいる。月あたりの製造量も増加することから、7%程度の売り上げ増加が期待される。

支援の経過

期間	支援内容
H29年4月	持続化補助金の申請支援
11月	販路開拓のための展示会出展支援
H30年3月	ものづくり補助金の申請支援

会社概要

会社名：有限会社カネミヤ
住所：新潟県新発田市下小中山345-1
電話番号：0254-33-2408
URL：http://www.kanemiya-men.jp
代表者名：代表取締役 宮下具己
創業年：昭和46年
従業員数：2名
商工会名・担当者名：加治川商工会・波塚貴浩